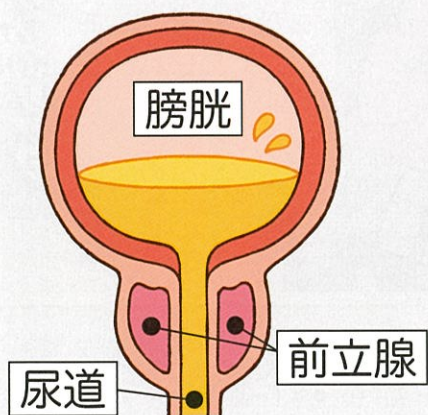


# PSA検査が命を救う

## 急増する

# ぜんりっせん 前立腺がん



男性だけにある生殖器官、前立腺。この前立腺にできるがんが近年急増し、男性のがん罹患率1位となっています。男性の10人に一人は経験するといわれる前立腺がん。確率的には少なくありませんが、PSAという検査を行なうことで早期発見も可能で、生存率が高いがんともいわれているのです。

### 前立腺がんとは

前立腺は、男性のみに存在する15グラム程度のクルミ大サイズの生殖器官で、膀胱の出口を囲むように位置しています。前立腺の働きは排尿や射精のコントロールで、

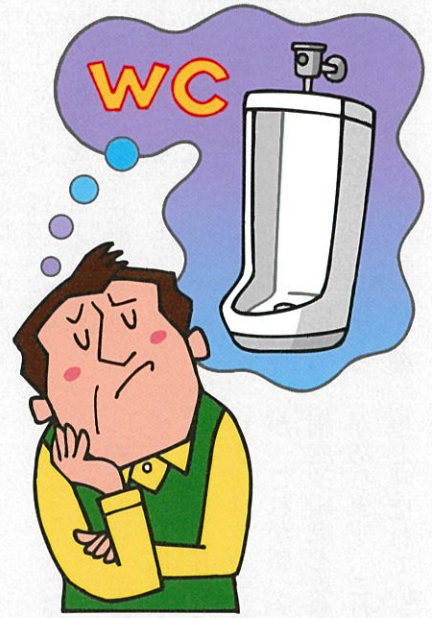
また精液の成分の一部を分泌したりもしています。このため、男性機能にとっても重要な器官といえます。

この前立腺にできる悪性腫瘍が前立腺がんということになります。発症は60代以上が多く、発症者増加の背景には、日本人の平均寿命が伸びたことが関係あると考えられています。

### 前立腺がんの症状

代表的な症状は、尿がでにくくなる・でなくなる、あるいは頻尿といった排尿障害です。さらに進行すると、骨転移による腰痛なども起こります。

前立腺がんは初期には症状が現



われにくいがんであり、その理由は、腫瘍が前立腺のなかでも尿道から離れた場所に生じることが多いためです。尿道を圧迫して排尿障害が起こる頃には、ある程度症状が進んでいることとなります。このことを聞くと不安になる方もいらつしやるでしょう。けれども、次章でご紹介する検査によって、早期発見・治療が可能ながんでもあるのです。

### 前立腺がんの検査

前立腺がんの検査では次のようなものが行なわれます。

#### 〈PSA検査〉

PSA検査は前立腺の異常の有

無を探るのに非常に有効な検査です。前立腺が異常を起こすと、PSAと

いう酵素が血液中に増え、その値でがんの進行度の予測がつけられるのです。血液検査で調べられるため、身体への負担も少ない検査です。

ただし、PSAの値が基準値を超えていてもがんとは限りません。前立腺肥大など別の病気の可能性もあるため、高値の場合はその他の検査も行なうこととなります。

#### 〈直腸の内診〉

医師が肛門から指で触診を行なうと、直腸越しに前立腺の異常を調べます。

PSA 検査による年齢階層別基準値

50～64歳	65～69歳	70歳以上
3.0ng/ml	3.5ng/ml	4.0ng/ml

#### 〈超音波検査〉

肛門から棒状の装置を入れて、前立腺の様子を画像で確認します。〈組織生検〉

がんが疑われる場合は、前立腺から組織を採取して良性か悪性かを調べます。

前立腺がんの進行度は、TNM分類という3つの観点から判断されます。T分類は腫瘍の状態、N分類はリンパ節への転移の状態、M分類は前立腺以外への転移の有無を示します。各分類は、詳細な項目から成っていて、総合的に判断をします。

### 前立腺がんの治療

がんの診断がなされた場合、前立腺内のがんがとどまっていれば、手術による全摘や放射線療法を行ないます。

がんが進行している場合は、ホルモン療法や抗がん剤の投与が行なわれます。ホルモン療法は効果が大きく、がんを大幅に縮小し、症状の改善が望めます。

しかし、前立腺がんの患者さんは高齢の方が多くことや、前立腺

がんは一般に進行がゆっくりなため、身体に負担のかかる可能性のある治療は行なわず、経過を見守るケースがあることも書き添えておきます。

### 50歳を過ぎたら PSA検査を

前立腺がんは初期では症状がないことが多く、以前はがんが進行してから見つかることが少なくありませんでした。しかし、PSA検査が開発されたからは、初期の段階でも前立腺の異常がわかるようになったのです。これは前立腺がんの振るい分け検査として画期的なことです。

前立腺がんは高齢での発症が多いため、50歳を過ぎたらPSA検査を受けましょう。通常の健康診断の血液検査の項目には含まれないので、オプションとして行なうこととなります。また現在、排尿に関する何らかの違和感を感じている方は、早めにかかりつけ医に相談して検査を行なってください。前立腺がんの早期発見・早期治療にPSA検査はとても大切な役割を果たしているのです。